

DOTインターナショナル

CROCのDOTインターナショナルは今

DOTインテックの経営陣も豊かな実績を生かして、今後3年間でモニター（CRA）を50人から100人体制に増強すると共に、臨床研究の支援にも力を入れる。DOTインテックの折戸哲也代表取締役は、本紙のインタビューで「ワールドインテックとの統合で、CRO業務で柱となる人材を質・量の両面で強化できる」と語る。両社の強みを組み合わせ、競争が激化するCRO市場で存在感を発揮したい考えだ。

DOTは、2006年に設立。泌尿器科・整形外科・血液内科などを得意領域に1500例以上の大規模試験を受託した実績を持つ。さらにモニタリング業務からDM・統計解析、メタ分析まで幅広い業務を得意とする。また、右肩上がりで成長している。

折戸氏は、「小規模のCROでありながらも、支援実績の全てでプロジェクトを受託し、二つの新薬を早期上市に結びつけている。

小回りが効いて顧客ニーズに柔軟に対応できる一方で、大規模試験をきちんと運営していくのはわれわれの強み」と自信を示す。

今回の経営統合については、「今後の受託拡大に向

け、より一層の事業規模が必要になると判断した」と説明。他社提携を模索してきたが、昨年CRO事業に参入し、本格的に臨床開発受託を目指すワールドインテックの一員に加わること



(左から) 伊藤氏、折戸氏

を決めた

最重要課題になる。総合人材派遣サービスを手がけるワールドインテックの後押しを受け、CRAを3年間で100人体制に拡充するのが目標だ。経験者の積極採用や未経験者の能力開発にも積極的に取り組み、早期に戦力化していく。特にワールドインテックとは、採用時の優秀な人材の確保、費用対効率の向上に

う。ワールドインテックの常務執行役員R&D事業本部本部長の伊藤修三氏は、「DOTが強みとする治験の運営支援に、ワールドインテックの経営基盤を組み合わせることで、相乗効果が狙える」と期待を語る。国際共同試験が増加し、医薬品開発がグローバルに

採用時の優秀な人材の確保、長期就業に向けたサポート体制などで連携し、万全な教育体制を作りあげ

重要」と述べ、組織の底上げをポイントに挙げた。その一方で、国が推進する臨末研究を支援し、新規

万全な教育体制を作りあげる。
営業面でも、ワールドイ
ンテックが持つ全国の営業
8拠点、200社の顧客基
盤を活用し、新規開拓を狙

る臨床研究を支援し、新規事業として育成する方針だ。既に大学病院や公立病院で実施している臨床研究支援の実績があり、さらなる受託を目指す。